

～ 長寿のお祝い御膳～



今年も「敬老の日」に“長寿祝い膳”をお出しさせて頂きました。お赤飯にお吸い物、お刺身は鮪の赤身と中トロ、天ぶらは海老、茄子、舞茸の3点盛りで、デザートは抹茶パバロアには栗をあしらいました。当施設は毎日が敬老の日。今後も利用者様にご満足頂ける食事の提供に尽力して参ります。

～ 10月の趣味の教室～

★ 書道教室【大倉佳子先生】

- 10月 17日(月)
- 10月 31日(月)
- 2階 午後1時30分～

★ 陶芸教室【齋藤勝義先生・梶谷和子さん】

- 10月 28日(金)
- 2階 午後1時30分～

～ 10月の行事予定～

★ アンサンブル・ラテ(クラシック等の演奏)

10月 14日(金) 午後1時30分 2階

★ 福豆(よさこい踊り)

10月 22日(土) 午後1時30分 2階

編集後記

夕暮れの時刻が少しずつ早まってきました。いづみケアセンターの窓から見える田んぼは稲刈りの真最中。季節の移り変わりを感じる今日この頃です。  
編集委員 島田ゆかり

～ 定例催し物～

- ★ 音楽会【宮岡久美子さん】
  - 10月 4日(火) 午前10時30分 2階
  - 10月 5日(水) 午前10時30分 3階
- ★ 音楽会【さくら草さん】
  - 10月 6日(木) 午後1時30分 2階
  - 10月 27日(木) 午後1時30分 3階
- ★ 朗読【権田喜代さん・根岸麗子さん】
  - 10月 18日(火) 午後3時30分 2階
  - 10月 19日(水) 午後3時30分 2階
  - 10月 26日(水) 午後3時30分 3階
- ★ 詩吟【佐藤譲先生】
  - 10月 19日(水) 午後1時30分 2階
- ★ 折紙【田中三枝子さん】
  - 10月 5日(水) 午後1時30分 2階
- ★ 編物【梶谷和子さん】
  - 10月 11日(火) 午後1時30分 2階
  - 10月 25日(火) 午後1時30分 2階

手芸作品



～ 滑川祭りのご案内～

「文化の日」に滑川祭りが開催されます。今年も当施設が出店致します。詳細は下記の通りです。皆様、是非お立ち寄り下さい。とびっきりの笑顔でお待ち申し上げます。

日時： 11月 3日(木)  
午前10時00分～  
午後3時00分

会場： 滑川町総合運動公園  
内容： 1.サーターアンダギーの販売  
2.バザー

「ウッドビーズの  
ネックレスと刺子」



いづみのホームページ <http://www.kokoro.or.jp/izumi-care/>

介護老人保健施設いづみケアセンター



〒355-0807 埼玉県比企郡滑川町和泉 873  
TEL0493-56-6123 FAX0493-56-6124



「私のやるべきこと、進むべき道」

入所課長 橋本房江



深まりゆく秋の気配はどことなく物悲しくさえありますが、今年は一層そうした思いに駆られます。平成23年3月11日は忘れられない、そして忘れてはいけない日となりました。あの未曾有の東日本大震災から7カ月が経ちますが、私は未だに心にぽっかりと穴が空いた様な空虚感を埋める事が出来ません。幸運にも実質的な被害を殆ど受けなかった私でさえそうなのですから、愛する人を亡くした方や被災した方のお気持ちを思うと胸が痛みます。あの日から今日までは決して“あつという間”ではなかったのであろうし、今尚深い悲しみの中に居られるのであろうと。

今更ながら気付かされた事は、何気ない当たり前の日常こそが実はかけがえのないとても幸せなものと言う事……。そして一番大切なものは形ある物質的なものではなく、目に見えないものであるという事……。かつて『自分が幸せだと感じたのは有るものを数えていた時であり、不幸だと感じたのは欠けているものを数えていた時である』と教えてくれた方がいました。その方は「有るものを数えよ」と説かれたのです。有るものを数え、満足し、感謝し、喜びなさいと。その言葉の意味が今は本当に身に沁みます。そして今こそ日本国民が総力を結集して震災の復興に尽力すべき時であると思うのです。

では非力な私に何が出来るのでしょうか。休暇を取ってボランティアに行くことでしょうか。確かにそれも価値ある支援と成り得るでしょう。しかし私は“いづみケアセンター”の入所課長としてケア現場をお預かりしています。ここを離れるわけには参りません。そんな私に出来る事とは、「ここ“いづみケアセンター”を立ち位置として、自分の成すべきことにしっかり取り組み、最高のケアを提供する事」であると思います。それはケア現場の責任者として当然持ち合わせて然るべき“使命感”ではありますが、一層その思いを強く抱いております。高齢者施設、介護施設の先頭を走る施設となることで、被災地の施設のみならず全国の施設から目標とされる存在となり、日本中のケアのレベルアップに貢献出来れば、こんなに嬉しい事はありません。

介護の仕事とは入浴や食事の介助をすることではありません。ケア現場は職員にとって“仕事”でも、利用者様には“生活”です。当然、生活のプロは利用者様であり、私達はほんの少しそのお手伝いをさせて頂いているに過ぎません。しかしそこに感動を与えることの出来る何かがあったならどんなにか素晴らしいことでしょう。皆様のご期待にお応え出来る様、必ずやそうした施設へと成長させて頂いて参ります。利用者様の喜びが私達の喜びであり、前へ進む原動力です。努力を惜しまず、誇りを持って頑張ってお参ります。最後にこの場をお借りして、私達に働く機会を与えて下さる利用者様に感謝申し上げます。